

(2015年10月8日付しんぶん赤旗)

11月の大阪府知事・

大阪市長のダブル選挙で「大阪都」構想の「バージョンアップ」を掲げる橋下徹大阪市長（大阪維新の会代表）。

「一回限り」「ワンチャンス」としていた「都」構想に固執する姿は、ほかに掲げる政策がないことを示すものとなっています。

「都」構想とは、大阪市と市内24区を廃止し、権限も財源も半人前の五つの特別区に再編するもの。市の権限や財源を府が吸い上げ、「一人の指揮官」がやりたい放題の独裁体制をつくるものです。

かつては「都構想は

「修正」しても大阪市廃止 橋下「維新」

デメリットがない」

（3月、大阪府豊中市）と断言していた松井一郎府知事（大阪維新の会幹事長）。先月30日のテレビ番組では、「どこを変えていくのか」と問われ、大阪維新の会が単独で決定した区割りと区の名称を主なものとして挙げ、「住民の声を聞いたものに変えていきたい」と主張しました。

結局、「バージョンアップ」の中身とは、区の名称の変更など小手先の修正にすぎず、大阪市を廃止することになりはありませぬ。

（笹）